

植栽した苗木は冬芽をつけました。植栽箇所は一面銀世界です。

9月18日に札幌市大通公園西8丁目会場で、多くの市民の皆さんと一緒に作った「ポット苗木」を、9月29日に定山溪国有林内2403は林小班（さっぽろ湖の上流部、ヘルヴェチアヒュッテ付近）に植栽しました。その小さくてかわいい苗木もいよいよ長い冬に向かう準備を始めていました。

植えた苗木は、ハルニレ、ヤチダモ、シラカンバという名前の落葉広葉樹です。落葉樹はその名の通り葉っぱを落とします。実は常緑広葉樹も落葉はしていますが、落葉樹は冬期に一齐に葉っぱを落とすのです。

この苗木を植えた場所周辺の樹木は、だいたい10月下旬にはすっかり落葉しますので、約半年の落葉期間があります。その間、落葉樹は眠っている（休眠）のですが、眠りに入る前に春の目覚めのための準備も怠りなくしてから眠りにつくのです。

葉っぱの落ちた枝をよく見て下さい。ただの枯れ枝ではないことがよくわかります。目立たないけれど、“冬芽”（とうが）といって、春になって葉っぱとなり、花となる芽がしっかりと息づいています。



植栽したポット苗木も雪に埋もれます（11月19日）

苗木を植えた場所は、12月になると深い雪に閉ざされてしまいます。ホームページでこの苗木を見てもらえるのも今年が最後になってしまいますが、来年の芽吹きを楽しみにしてして下さい。春一番に皆様にお知らせします。



ハルニレ



ヤチダモ



シラカンバ



9月18日大通公園で「ポット苗木」作り



9月29日定山溪国有林にポット苗木を植栽

樹種によって葉っぱも花も違いますから、当然、“冬芽”もそれぞれに独特の個性を持っています。遠くから見たら、どの木の枝も同じように見えるかもしれませんが、近くで観察すると、“冬芽”の姿にも魚のうろこの様な芽鱗（がりん）をたくさんつけているもの、芽鱗に毛が着いたものと様々なものがあります。皆さんも近くの公園などでよく観察してみてください。